

社会福祉法人 立石会 介護老人福祉施設 みどり園 様

入所者さんの様子を映像確認することで 業務に安心感が増し介護の質向上へ

納入概要



みどり園様 施設外観

みどり園様は鳥取県東伯郡琴浦町で平成6年から特別養護老人ホームの事業を開始。日本海と大山に囲まれた自然豊かな環境で、地域に貢献できる介護施設を目指されている。

納入先

社会福祉法人 立石会
介護老人福祉施設 みどり園 様

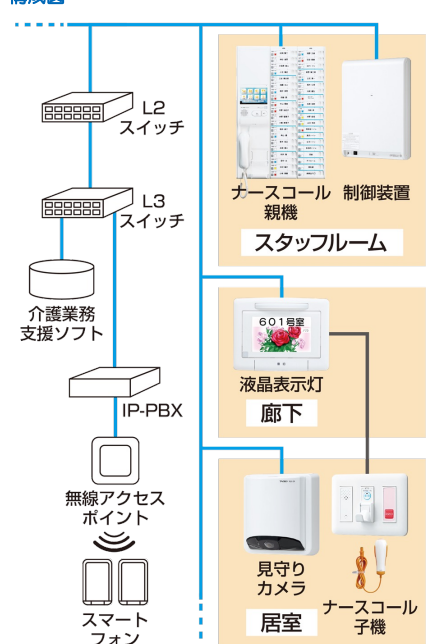
所在地：鳥取県東伯郡琴浦町八橋1937番地

定員：特別養護老人ホーム90名／ショートステイ20名
／デイサービス40名

納入システム

- ・Vi-nurse ビーナース
- ・スマートフォン
運用開始時期：2019年 8月
- ・映像見守りシステム(見守りカメラ)
運用開始時期：2023年 9月

構成図



課題

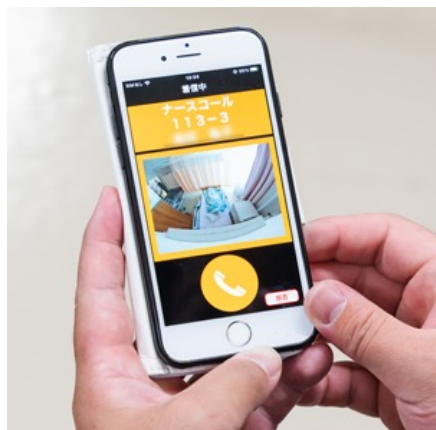
- 呼び出し時、入所者さんの状況が分からず、業務に不安を感じていた。
- スタッフが少なくなる時間帯の業務支援策が必要となっていた。

解決

スマホと見守りカメラ※の導入で、スタッフを支援

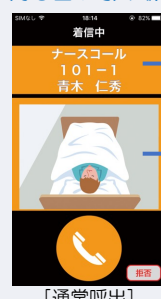
- 映像付きで入所者さんの情報を手元で確認、安心して業務を行えるようになった。
- 遠隔で入所者さんの様子を確認し、巡回業務を効率化した。

※スマホ：施設内専用 / 見守りカメラ：Vi-nurse専用機器



スマートフォンで部屋番号、カメラ映像を手元で確認でき、呼び出し対応の機動性を高める。

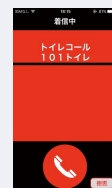
[呼び出し時] 入所者情報表示



[通常呼出]

背景色で呼び出しの優先度がひと目で分かる。

- ・呼出種別
- ・ベッド番号
- ・入所者氏名
- ・見守りカメラ映像



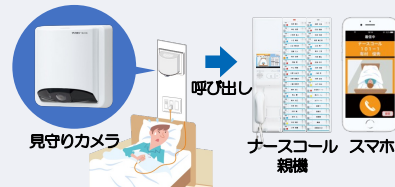
[トイレ呼出]



ナースコールと連動する「見守りカメラ」。

[映像見守りシステム(見守りカメラ)]

見守りカメラの活用により、呼び出しと同時に映像で入所者さんの様子をお知らせ。



他にも、入所者さんの動きを検知して通知。検知前の様子が分かるブレ録画により介護業務を支援。

●インタビュー



施設長
加藤様

主任相談員
阪本様



入所さんがいつも安心して安全に暮らせるよう、生活環境の向上を目指す積極的な姿勢が印象的でした。
(中央：社会福祉法人立石会 理事長 坂本様)



センサー（オプション）の接続を緑色点灯でお知らせ。入所さんごとにひと目で見守りセンサー等の使用状況が分かる。



7型画面

ナースコール親機の7型画面にはカメラ映像や呼び出し情報等の情報を大きく表示。



※画面ははめ込み合成です

居室前に設置する液晶表示灯には入所さんの情報をナースコール親機から反映。手書きの手間を解消できる。



呼び握りボタンは小型で握りやすいデザイン。



接続部分にはミニプラグを採用
接続時にピンの向きを確認する手間を省力化。

Q | スマホと見守りカメラを導入して実現したことは？

A | 入所者さんのカメラ映像と情報を手元で確認。その場で優先度を判断でき、業務に安心感が増した。

加藤様：以前使用していたナースコールは呼出ボタンとスタッフルームに設置されたナースコール親機のシンプルな構成でした。スタッフルームから呼出音が聞こえると、スタッフルームに戻って入所者さんの情報を確認してから駆けつけなければならず、手間がわかりました。

阪本様：時間帯によっては呼び出しやベッドセンサーのアラームが頻繁になることがあります。ナースコールと連動するPHSを使用していましたが、PHSの液晶画面に表示される情報では、入所者さんが自ら介助を

求めてスタッフを呼び出したのか、それともベッドセンサー等が反応したのか、特定ができませんでした。スマートフォン連携、そして見守りカメラの導入により、呼び出しと同時に入所者さんの映像と情報がスマホに表示されるので、その場で状況を確認し、優先度を判断。業務を効率化でき、安心して対応可能になりました。

加藤様：当園では外国人スタッフと一緒に仕事をしていますので、「音声翻訳アプリ」も活用しています。スマホはスタッフ間のコミュニケーションの円滑化にも貢献しています。

Q | その他、見守りカメラを業務に役立てたことは？

A | モニター機能を使用して遠隔で訪室を判断したり、録画映像を事故原因の検証・対策に活用しています。

阪本様：見守りカメラの導入は、夜間など人手が少ない時間帯における業務支援の一環でもあります。カメラ映像はスマホやナースコール親機から夜間でも確認できるので、入所者さんの様子を直接お部屋にお邪魔することなく遠隔で確認して、訪室の必要性を判断するなど、業務に活用しています。

加藤様：見守りカメラの録画映像は、転倒など万が一の事故発生時に、発生原因の検証や将来の対策に役立てています。

阪本様：見守りカメラは取付パネルなどの準備をすれば、取り外しができるため必要なベッド

だけに設置できますが、今回はすべてのベッドサイドに設置しました。入所希望者の急な受け入れに備えることができ、現場で対応するスタッフの安心感にも繋げることができました。

見守りカメラを導入するにあたり、すべての入所者さんのご家族に導入を報告し、使用への同意をいただいています。使用を拒否されるケースはまだありません。また、既存のベッドセンサーと併用して、見守りカメラの起き上がり検知と離床検知の機能も活用しています。見守りカメラの設定操作は思っていたよりも簡単で、スムーズに活用できています。

Q | Vi-nurse導入による業務上のメリットは？

A | 介護支援ソフトとの連携による呼出履歴の活用や、手書き業務の削減で業務の質が向上しました。

阪本様：Vi-nurseの選定理由の一つとして、当園で使用していた介護業務支援ソフトウェアと連携できたことも大きな要素です。呼出履歴の情報をソフトウェアに自動で転送、保存されるので、介護記録とともに効率的に情報を管理できています。呼び出しの傾向の変化を医師への報告に活用するなど、呼出履歴を介護の質の向上に役立てています。

お部屋前に設置する液晶表示灯には入所者さんの氏名などがナースコール親機の入力により反映されるので、手書き業務の手間を解消できます。また、ナースコール親機では見守りセンサーが接続されたベッドを緑色の点灯で知らせてくれるので、センサーの使用状況がひと目で

分かります。更にナースコールの呼出ボタンを接続するプラグは1ピンのミニプラグで挿しやすく、万が一脱落した際も復旧しやすいので、スタッフに余分な手間がかからないところも利点の一つです。

加藤様：介護業界において、人材不足は深刻な問題の一つです。そのような状況の中でも介護業務の質を下げることなく、入所者さんに「ここに来て良かった」と思ってもらえるような介護業務のあり方をかたちにしたいと考えています。スタッフが長く働ける職場環境づくりのためにも、毎日の介護業務を支援するシステムを取り入れながら、介護業務の質の向上とスタッフの負担軽減の両立に取り組んでいきます。

(2023年11月取材)